

## 一 本来の四弘の事

仰せに云はく、諸法の当体本来四弘なり。其の故は衆生と云ふは法界なり。所詮法界に理・智・慈悲の三を具足せり。応報法の三身、諸法の自体なり。無作の応身を以て衆生無辺誓願度と云ふなり。無作の報身には智徳断徳の二徳を備へたり。煩惱無辺誓願断を以て本有の断徳とは定めたり。法門無尽誓願智を以て本有の智徳とす。無上菩提誓願証を以て無作の法身と云ふなり。所詮四弘誓願の中には衆生無辺誓願度肝要なり。今日蓮等の類は南無妙法蓮華経を以て衆生を度する、是より外には所詮無きなり。速成就仏身是なり。所詮四弘誓願は一念三千なり。さて四弘の弘とは何物ぞ。所謂上行所伝の南無妙法蓮華経是なり。釈に云はく「四弘能所混す」云云。此の釈は止観に前三教を釈せり。能と云ふは如来なり、所と云ふは衆生なり、能所各別するは権教の故なり。法華経の意は能所一体なり。混と云ふは、権教の心は機法共に一同なれば能所混すと云ふなり。あへて能所一同して成仏する所を混すと云ふには非ざるなり。今末法に入りて法華経の行者は、四弘能所感応の即身成仏の四弘なり云云。

高祖大聖人御講聞書<sup>上三帖内</sup>

日向之を記す

弘安元年<sup>戊寅</sup>三月十九日より同三年<sup>甲辰</sup>五月廿八日に至る 連々<sup>これ</sup>之を記し之を畢んぬ

御講聞書終